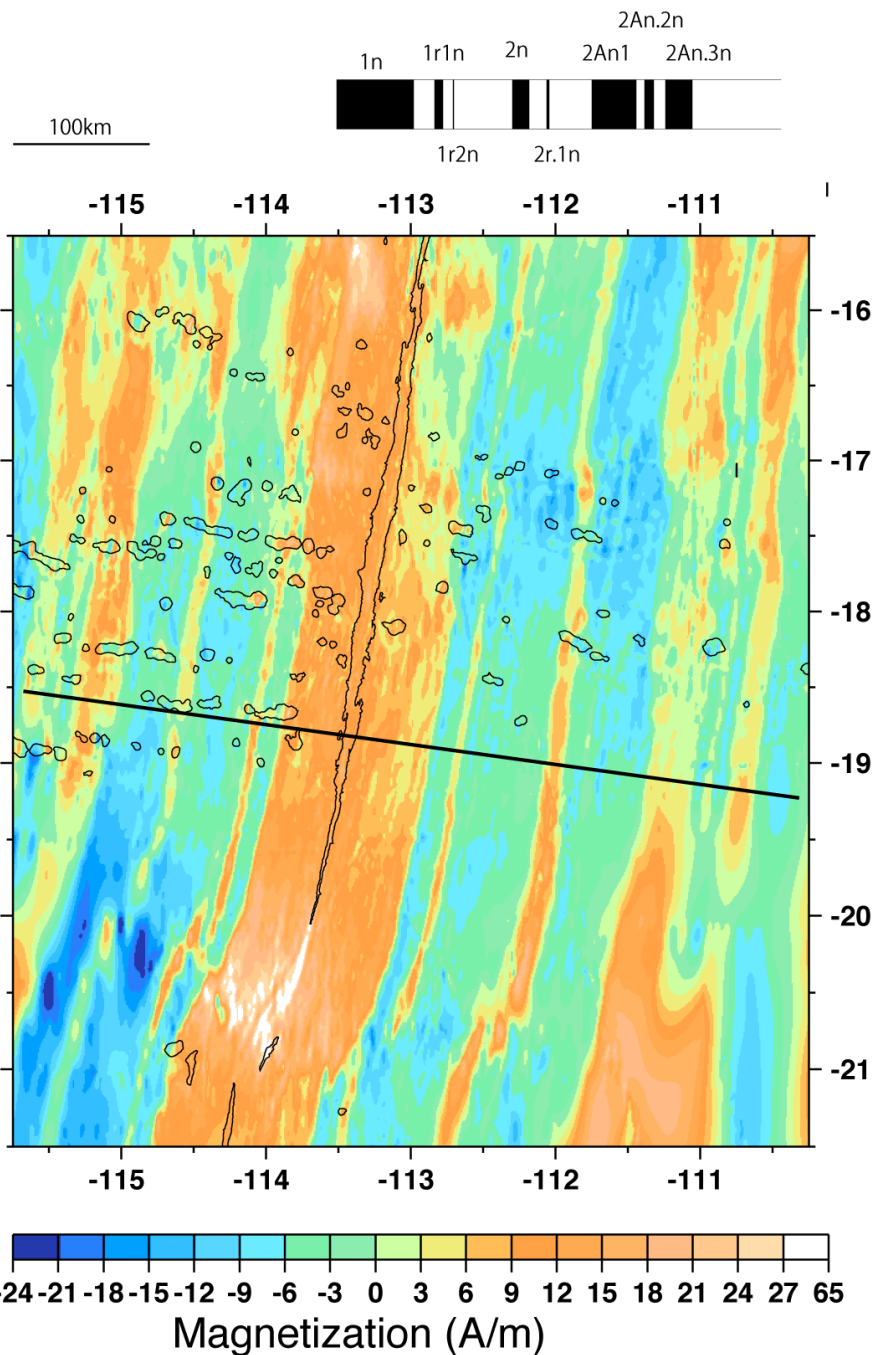


下の図は、南太平洋の中央海嶺周辺の磁化強度分布である(Cormier による、Marine Geoscience Data System からダウンロード)。磁化強度分布が負の値をとるところが、海底が現在と逆方向に磁化していると考えて良い。黒の細い実線は水深 2500m の等深線である。図中黒線上で海底拡大速度を以下の手順で推定しなさい。

- 1) 中央海嶺の軸（尾根線）がどこかを等深線から推定し、点を打つ。
- 2) 縞模様のパターンから、最も新しい地磁気逆転境界（ブルヌ松山境界、C1n の始まり = 0.781Ma）がどこかを判定して図中に示す(地図全体)。
- 3) 太実線（海嶺を横切っている）に沿って、ブルヌ松山境界とより古い地磁気逆転境界もしくはクロンの位置をマークする。磁化強度分布図の右上にある黒白のバンド図は、地磁気逆転史をスケールとして表したものである（ある一定速度で拡大していると仮定している）。
- 4) 距離を測って、拡大速度を決める。以下を考察すること
  - (ア) 東西で速度は同じだろうか（海底拡大は対象か非対称か）？
  - (イ) 拡大速度は過去から今に至るまで一緒だろうか？



地磁気逆転史  
(ATNTS 2004)

- ・赤字でクロン名にnがつくのが正帯磁(今と同じ磁場方向)の時代
- ・数字の単位はMa(百万年前)

- 0.000-0.781 C1n
- 0.781-0.988 C1r.1r
- 0.988-1.072 C1r.1n
- 1.072-1.173 C1r.2r
- 1.173-1.185 C1r.2n
- 1.185-1.778 C1r.3r
- 1.778 -1.945 C2n
- 1.945 -2.128 C2r.1r
- 2.128 -2.148 C2r.1n
- 2.148-2.581 C2r.2r
- 2.581-3.032 C2An.1
- 3.032-3.116 C2An.1r
- 3.116-3.207 C2An.2n
- 3.207-3.330 C2An.2r
- 3.330-3.596 C2An.3n
- 3.596-4.187 C2A